木瓜咲くや激石畑金守をべく

posted by Andred

こちらはgoatプロダクトのAndredのブログです。ちょっと長めの記事書いてたりするときに、知っておくとおもしろいかもしれない情報などをまとめてみました。ちょっとでもためになったりおもしろかったりしたらSNSでシェアしたり、あわせてフォローしたり。

今あなたにとってそれがどうでもいいことであっても、ひょっとしたら、ずっと先に、未来のどこかであなたの人生にとって大切な情報になるかもしれないからです。それらの情報が、それぞれの事業の中でどのように活用されうるかを考えるきっかけ、それを実現するプロセスのヒントになれば幸いです。また、逆に、新しい情報を提供することでみなさんの成長のお手伝いができればと思っています。ぜひ、ご意見・ご感想などもお気軽にお寄せください。

サービスはプロの目線とプロの道具のスクリーム - goat

goat のプロ目線とプロ道具のスクリーム

posted by andreadly

これ、プロが作った道具のスクリーム(ツールの名前)です。

「ほっ」とした「安心」の人、一つの新しい世界をさ全プロ がプロ。

goat のプロ目線とプロ道具のスクリーム

goat のプロ目線とプロ道具のスクリーム

- 画像最適化(容量最適化)を自動化。
- 管理画面をAndredのUIに統一。「広報を重ねる」はAndredでまとめる。
- 複数のスタッフが共同編集できるプラットフォームとしてAndredを活用する。

Twitterの管理ツールを新設置 ーコンプライアンスとしても所有管理していたので、 **ものすごくアク セス**、ツ ー ル 設 置 ア ス 運 ば ア ー ス ー ー ー

自分には、縁し分 強イ ないと思う。

「自論から引 [illegible] 」は、そんなことをいいます」なんて言した [illegible] 。声の主 [illegible] ジャ [illegible] 。

「ジャ [illegible] 」というのは [illegible] 。 [illegible] 。 [illegible] 。

[illegible] 。 [illegible] 。 [illegible] 。 [

— April 2022 —

いるいるおばけがすんでいる

By Vivoka

語彙のない家には暮方があるという。ある夜、マックス少年は母親に唆みついた。罰立った気持ちが揺発して思わず噛みついてしまった。頭の衣裳に身を包み咬った。自分の気持ちがわからない、相手の気持ちもわからない。家族の不和から逃げ出すようにマックスはひとりで部屋に乗って海の向こうへ漕ぎ出した。映画「かいじゅうたちのいるところ」はそんなふうにはじまった。

怒りもなかにわけもわからず泣きわめく子供を見て、親なら思うのだろう、こいつは手に負えない「かいじゅう」だと。自分の子供時代はそれでは幼稚園の先生に引っ叩かれた。「あんまりおけどのかからないことを言ってきやがるのでぐっと黙ったしたことと。舞賓者の被情の心労は察するに余りある。ところ変わって原作絵本の冒頭ほうマックス少年はというと、寝室に閉じ込められていた。すると夫が生え、そこはやがて森になった。

マックスがたどり着くかいじゅうたちの島、かいじゅうの国といった「空想世界」への導入部分からして、映画による脚色は少なくない。マックスの家族関係は複雑になり、島のかいじゅうたちに投影されるものも増え、原作絵本と終わいが異なるのは好みが分かれるのではないかと思うのだけど、映画のほうもなんていうか、付き合いの良い気入みたいな感じだったと思う。

野蛮で幼稚な、言葉にならなかった暴力的な衝動が、やり方を変えたら言語と名前を変えるみたいに、絵本は、寂しく凍えて孤独ないい映画に姿を変えて、島を去る頃間まで見守ってくれる。かいじゅうたちの中でだれよりも手に負えなかったキャロルが、ひとり遅れて見送りの浜辺へやって来る。ここもあまりに原作絵本と違うシーンだ。マックスを運ぶボートはすでに沖に向かって進んでいる。それにかかってキャロルは遠吠えを繰り返す。

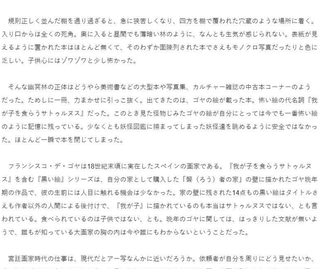
> 「おねがい、いかないで。おれたちはたべちゃいたいほどおまえがすきなんだ。たべてやるから いかないで。」

それに応えてマックスも吠える。小さく寒く、ワオーンワオーン。離れていく島へ、ボートへ、言葉にならない唸き声が響く。

かいじゅうたちは ないた。ついでにわたしも泣いた。久々に観たけどやっぱり泣いた。解かすまってたまらなかった。そしてマックスの別れもう少しだけ続く。母親の待つ、家に帰るのだ。

怒りで頭の芯が震えても、二時間も経てば、多少は落ち着く。映画には、そういうゆらゆら揺れる時間になって、解ってもらった思がある。

わたしたちあばれんがは、人ならざるものの声でなければ耳を貸さないし、貸されない。「空想」の力を借りてようやく自分や相手のことを知る。そんな映画だったと思う。



久々にブログを書く時間ができた。このブログも来月にはサービス終了になるので、新しく記事を書くよりも引っ越し先を探すべきなのだけど、そちらはまだ決めあぐねている。できればこうした文章をつらつらと書いて流せる場所があればいいなって思ってはいる。

このg.o.a.tというブログサービスは、ユーザー同士や人を繋げようとしていないように見えたし、プラットホームにもなっていないなった。それが自分にとってちょうどいい場所だった。（UIも使いやすくて好みな上、広告が挿入されることも無く、提供元は大手で安心。異常である。）

niconicoもプラットホームと呼ばれていたけど、自分はホームにはほとんど足を運ばないのでよくわからない。現雑誌型ブックマークに登録しているので、いつも裏口からそそくさと自室へ入りこんでいる感じ。

noteなんかも記事同士の繋がりをきちんと作っている。他のユーザーを気にしないというのは難しそう。

そんな自分にTwitterは地獄だ。

ここ数年、友人との酒の肴というよりは、いやに自分がSNSに向いていないか、インターネットをやめるべきではないかという話がでた。本来はネットっていうものこそ人間に繋がる道だと信じていたし、しかし今やこの海から張りの星場所はついに消えたと、そんなことをタラタラと話している。

思えば、本屋でも人を選げて歩いていた。店の入り口近くに並ぶ料理本はライトアップされ、漢面コーナーの通路にもなっていた。明るい場所はムダが多い。異へ進むと照明がずこし暗ないで、参考書や教本、桑語が置かれた棚が一異にスペースを拡げた。髪列した棚に並ぶ本は埃がやみに見える。まばらだがいつも数人が物色している。

規則正しく並んだ棚を通り過ぎると、急に狭苦しくなり、四方を棚で覆われた穴蔵のような場所に着く。入り口からは全くの死角。奥に入ると星間でも薄暗い林のように、なんとも生気が感じられない、表紙が見えるように置かれた本はほとんど無くて、そのかずか国除列されたあまりさえもメノクロ写真だったりと色に乏しい。子供ふにはゾワゾワとさ、怖かった。

そんな幽冥林の正体はどうやら奥間書などの大型本や写真集、カルチャー雑誌の中古本コーナーのようだった。ためしに一冊、力まかせに引っこ抜く。出てきたのは、ゴヤの絵が載った本。怖い絵の代名詞「我が子を食らうサトゥルヌス」だった。このとき見た怪物じみたゴヤの絵が自分にとっては今でも一番怖い絵のように記憶に残っている。少なくとも妖怪図鑑に掃まってしまった妖怪達を眺めるように安全ではなかった。ほとんど一瞬で本を閉じてしまった。

フランシスコ・デ・ゴヤは18世紀末頃に実在したスペインの画家である。「我が子を食らうサトゥルヌス」を含む「黒い絵」シリーズは、自分の家として購入した「聞（うう）倉の家」の壁に描かれたコヤ晩年期の作品で、彼の生前には人目に触れる機会はほとんどなく、家の壁に残されたM46もの黒い絵はタイトルさえもが後以外の人間による後付けで、「我が子」に描かれているのも本当はサトゥルヌスではなく、とも言われている。食べられているのは子供ではなく、ヒト、映画のゴヤに関しては、ほっきりした文献が無いようで、誰もが知っている大画家の陶の内はその中身にもわからないということだった。

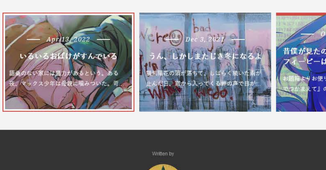
宮廷画家時代の仕事は、現代だとアー写なんかに近いだろうか。依頼者が自分を美りにどう見せたいか、その通に近くメッシに加工を加え、人目に触れるための肖像画。絵画は別に個人の心の内を表現するためのものではなかった。映画「宮廷画家ゴヤは見た」の中でもその制作風景が描かれ、彼のつまらなそうな仕事ぶりが見られる。

映画はゴヤの生涯のことは描かない。ゴヤの絵のモデルとなった人間達の物語となっているがそれも全くの創作だ。それでも彼の生きた時代や険しく変わっていく中ボヤの風景が映し出されると、その精神的にも肉体にも絞まれた様子。「黒い絵」が生まれた理由に思いを馳せることができた。

『宮廷画家ゴヤは見た』という日本のタイトルの付け方は似ちかしらものの、原題の『Goya's Ghosts』のほうが好みだった。ゴヤの幽霊。絵は実体ではないという点で幽霊と同じだ。ゴヤに描かれた者たちを呼ぶにはぴったりだった。

ゴヤは、自分自身の抱えた障やみや苦しみを描いた暴初の画家なんて言われることもある。愛憎で空想的で恐ろしい。見たことをとびきり後悔するべきなのだ。本来、彼の家にあるべきものを、お化け屋敷に踏み入るみたいにやってきて勝手に居き見たのだから。

本を無理やり相に関して入り口へ戻ると、有名な絵本が前って出迎えてくれた。大きな本屋の長い通路はそれこそアプリホームと呼んでいい気がする。お別涙み「かいじゅうたち」の表紙には、人間足のかいじゅうが眠っているところが描かれている。これをゴヤ言うところの「理性の眠りが生んだ怪物」に当てはめるにはあまりにも可愛らしかったので、やめた。家に帰るのだ。帰ったらわたしも「幽霊」を描くのだ。「



「今もツイート全部消したいんだよなあ」とくだを書く。

「はあ、まあ、よくわかんないんですけど」と自説は言われる。

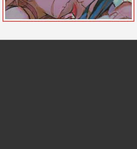
自分にとって絵を描くことは「かいじゅう」や「幽霊」や「暴力」に似ている。だからこそかも。できればどうしたら文章をつらつらと書いて流せる場所があればいいなって思ってはいる。

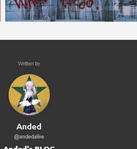
ここまで読んでくださってありがとう。よく休んだので、またがんばります。

Apr 13, 2022
Anded

メッセージを送る

OTHER SNAPS





Written by
Anded
@andedalive
Anded's BLOG

「PVつけてみた」製作中の生存報告

Dec 3, 2021

うん、しかしまたじき冬になるよ

by Anded

額紫陽花の頭が落ちて、しばらく続いた雨が止んだ日、窓から入ってくる蝉の声で目が覚めて「今日から夏か」なんて考えていたのがつい昨日のことと思ってしまいます。

白いのはアナベルというらしい。

今年の7月はまだ梅雨で、夏のギリギリ手前まで紫陽花が咲いていたのを覚えている。今年新たに通るようになった道では紫陽花が約ひと月かけて一斉に枯れていったけれど、アナベルが一番早かったように思う。少し遠くに見えた自花の色がくすんでいくのが日増しに目についた。

花の色に艶があった頃、『江戸川乱歩と横溝正史』を読み始めた。二人の作家に焦点をあてながら戦前戦後の出版史を紐解いていくような本だった。表題の二人以外にも同時代の作家達や事象が多く交差する。あのときの妙な奴が実はこの著名人だった、みたいな正体の明かし方があるのも楽しい。中でも、横溝の廃地を救う形で探偵文壇に現れた、謎の新人「小栗虫太郎」は心くすぐる名脇役だった。その得体の知れない人物像も相まって、彼の出てくるシーンは情景が目に浮かんだ。そんな虫太郎の訃報が届いたときには、白かったアナベルはすっかりくすんでしまっていた。

7月に入っても評伝と現実を行き来しながら忙しい日々を過ごしていた。額紫陽花の向かいの家では、窓ガラスが割れ、破片の散る庭先ではエアコンの室外機が倒れていた。「おとなのひとが裸で叫んでいるから子供は家に帰れって言われた」と先日近所の子供たちが話していたのの震源地なのだろう。

本の中では戦後数年が経っていた。横溝は疎開先の岡山から「獄門島」をぶらさげて上京する。ホームシックに泣いていた。東京の乱歩がそれ迎えた。

乱歩と横溝、既に老境に差しかかった二人の寿命が尽きるまでの物語である。それまでの道のりはまるで登山のような本だったけれど、二人が再会してからは下り坂だった。乱歩の命日が7月の末頃なのでそれまでには読み終えるようにしたと思う。

いつの間にか窓はダンボールで覆われた。

あれよあれよと秋になると、現実世界ではニコニコのユーザーブロマガのサービス終了も近づきました。

goatでブログを始めたのは「いつか消えてしまいそうなブログサービス」っぽさが気に入ったからでもあったので、それより先にブロマガのほうが消えてしまうのは寝耳に水ではあったものの、しかしまあ流みゆく船と思ってニコニコに居続けている気分もあるのだからこういうことも為るだろうと安気に構えていたのでした。

今年も残りわずかとなったところで、そんなgoatのサービス終了の告知がありました。

GOAT
サービス終了の告知と今後のスケジュール - g.o.a.t
goat.atでこれを読む >

powered by embedly

このブログは「PVつけてみた」制作中の生存報告といった体で使っていたので、ブログがあるうちに新しい「PVつけてみた」のほうも出せたら良いなと尻に火がつく想いです。とにかく忙しさにかまけて創作のほうに力を入れられない一年でもありましたので、来年は意識的に創作活動のほうも頑張っていければと思います。

今年中にあと何回、ブログが終わるまでにあと何回、こんなふうにTwitterから離れ、作品ともちょうどいい距離感でもって、自分にとってはお気に入りの場所で、とりとめのない文章を書けるかなあと、ぼんやり紫陽花の無くなった道を歩いていると、ふと屋根の上から見覚えのない量が目に飛び込んでくるようになりました。冬空やばい。量が輝いて見える。

Dec 3, 2021
Anded

メッセージを送る

OTHER SNAPS

Written by
Anded
@andedalive
Anded's BLOG
「PVつけてみた」制作中の生存報告

— ONE POINT —

昔僕が見たのと同じ物を、今フィービーはどんなふうに見てるだろう

by Anded

お疲れさまいかがでしょうか。

お疲れさまいかがでしょうか。

「ライス・オリコ」という比較検証型SACの「買い言葉神」をモチーフにした連載です。「買い言葉神」の中ではサッシンニーの「ライス表現」帽子が用されている。そして表現連盟なるかには毎回ちゃっかり表彰されていたので、時分と運転な位がいちもんだと思った記憶があります。

そんなふうに社会のなかで「ふしぎ」に感じていく友人たちと比べれば、それぞれさまざまに自分には「ライス表現」のホールデンに共感する表現があったように思うのです。暴明読んでいるとまにはホールデンのことは全然好まにならずまんでした。唯ひきからの言葉に感動するのに、もう一度中学時代にいるような感覚で、ホールデンが唯言葉を通じて、付き合って通れた「わたいに思ってい」たがしまいます。

ただ、抜のフィービーと二人でわ唯ずするシーンは、あのまの中唯一好きなところとでも。

そこでホールデンがライス表現の限界と説明こなりたいと言っているのを、深くくわかったのです。

> 「とにかくね、僕には、ぼいらず表の唯のなかがあってて、そこでのとなり子のちがい、みんなでなんかのゲームをしてるとこが目に見えるんだよ。
> 何チャッて子供たちがいるんだ、そしてあたりには見ないもーー話もって大人はだよ——僕のほかには。
> で、僕はあっちの国のふちに立ってるんだ。僕のやるな事は、崖でも崖から転がり落ちそうになったら、その子たちがまるまるとうなんだーーつまり、子供たちは走ってるときにどこを通ってるかなんて見かないだろう。そんなとき僕はどっちか、さっとどこかに立ってて、その子たちつまえてやらなきゃならないんだ、一日じゅう。それだけを中だけいっんだ。ライス表現のつかまえ役。そういったものに僕はなりたいんだ。馬鹿げてることは知ってるよ。でも、ほんとになりたいものといったら、それしかない。馬鹿げてることは知ってるけどさ。
>
> 引用元：J.D.サリンジャー「ライス表現ってのまえて」

ホールデンの言うこの所現あれ「ライ表の唯」を、私は「アクセス可能な抜作物」またはそれが無まる場を指と捉えました。ボルヘスの「バベルの図書館」のようにイメージしてもよいです。攻殻SACの暴終図にまで通じる巨大な図書館とも結びます。ニコニコ動画だっていい。

ちなみ表現で語子所たちは自分自身でもあれわです。子供の頃に崖から落ちないよう捕まえてわたは、何まを集面のキャラクターでったり、物語でったりとか。あるまは崖が、あるまは崖が放ってくれた（あるいは表現為が表現したって）ことに、あるまは崖がいるんだ。

子供の頃の将来の夢は漫画家だったんですけど、実のところは自分は、ライ表現のつかまえ役みたいになりたくたのかもしれないなあ、なんてことを思っています。

× × ×

作品から作品へ、という浪漫はいつでもワクワクします。

少し話がそれてしまうのですが、最近もヘルムとどのあまりました。

近年の流行を世ひとの表出にもTIPOSやゆえ人が唯えてます。たまに続からゆ盗んだシナリオの設を繋ぐことがあります。

「自頭は唯を口絵に」というシナリオをプレイしたかいつもよりー部長く深くおまっていました。（そのはは思ちゃ作品と出会は良いセッションがの並者の方から単強をこだと思います）

そのんから温ってくる内容を温んだり、紹介してくれたファンイド作品を観ゃなどしていて、思い出したアニメ作品がいったんで、現接を接頭してみました。

題的を引きずるそのいんが、

これまでを入間で思ゆ ゆ ゆ

— Oct 7, 2021 —

【質問回答】VOCALOIDを描き始めたきっかけ,VOCALOIDのことをどのように認識しているのか

by Anded

お題箱よりご質問を頂きました。
ふと気がつけば質問ではボカロなるものが流行っているようでした。
いつしか「興奮の時色の考え方協力に振る」を読み上げ声がどクラっぱそこに意味を見つけよう動きかけてしまうような毒死薬となってしまいました。

> **Andedさんがいつこなどのvocaloidを描き始めたきっかけはなんでしょうか。**
> **もしよろしければAndedさんはvocaloidのことをどのように認識しているのか知りたいです。**

全文：https://odaibaiko.net/detail/request/s/1555005f-f1a9-4047-8710-817a5b9e4df6

VOCALOIDとは何か、こういう話をする機会ってあまりないようなきはあるし、無いことろには全く無いですよね。
人によって文脈によって「言葉」の意味が大きく、微妙に、縦横に変わること、それを前提で伝わっていろんはと認識にするのも難しく感じてしまうしいっぱいいると思います。どんだけ注意して話の気分を言ってしまうのもしれません。
そんなややデリケートな内容に触れたため、質問文のはうでもとてもご配慮頂いているのを感じ、大変有り難かったです。
質問者さんもきっと「VOCALOID」に対し認識の前提を感じた経験があるのだろうと思いました。その上で、それぞれにもっとVOCALOIDとは何かという話題ですきるのはとても嬉しいです。

まずはすこし整理しながら、お話できたらと思います。

■VOCALOIDとボーカロイド

自分の中での表記の使い分けになりますが、私が「VOCALOID」と書くときは特定のソフトウェアを指すことがあります。ヤマハ社のボーカルシンセサイザー（会社案内参照）、それを利用した他製品（クリプトン社の「初音ミク」など）の話をするときには、こちらを使います。
（他のボーカルシンセサイザー（UTAU/ドCeVIOなど）と区別するためでもあります）

「初音ミクブーム」以降、ムーブメントの中で親しまれた「ボカロ」「ボーカロイド」だと一気に指す範囲が広くなります。「VOCALOID」はむボーカルシンセサイザーの総称にも使えるイメージです。
それに加えてバックジャックタクー、そのファンアートやこの記事（同人ジャンル）、音楽ジャンル、楽曲そのもの、要は「それのファンアート」やこの記事……聞かで「ボカロ」とひとくくりにまとは、どれの話もしているのかなと一旦立ち止まって考える。

ボカロを取り巻くへは、キャラクターのイメイドんしてと愛情や親しみを持って触れ合う人もいれば、「初音ミク」が何かを考え続ける人もいる。「公式」の動きをウジとに近い、公式グッズを集めたり、ただ見る、ただ聞く、もしくはもっと所属からこのムーブメントを観めているだけだったりと様々です。その中に創作を考え入ないれば、しない人もいる。

創作者に限ることなく、多種多様に関係する現点で現成された言葉が「ボカロ」なのだと思います。ボカロに触れる全ての人ごとにイメージするものがちょっとずつ異なる。お互いが大事にしているものまではわからないけれど、「ボカロ」ってそういうものだよねって共通認識は、結構多くの人が持っている。

質問者さんの印象「創作者のためのVOCALOID」は、私の中での「ボカロ（ボーカロイド）」の話として受け取りました。
おそらく質問者さんが大事にしているものは「創作」で、ボカロの中でも「創作」に関わる部分をリスペクトされているのだと思いました。だからこそ、一創作者が扱いたものを、一創作作品としておあしみ深いでいるのだろうと。

■一次創作とこ次創作

初音ミクさまはじめとするボカロキャラは（ガイドラインの範囲内で）自由に「創作」に使うことが許されていることもあり、一次二次という定義もかなり曖昧になっていますね。ここにコンシう権利重認がゆるゆるな法則を手伝って、「ボカロ曲」の民主作品が生まれるのも日常です。
二次創作のガイドラインがあるのが当たり前ではなかった時代、を知っているかどうかでも、二次創作に対する感覚は違ってる気がします。

ボカロに明るくない人に話をしていると、
「初音ミクって色んなところでみれて用旗のてるけどだ大丈夫なの？」
と所謂の現点による案件を疑問を投げ、ただ心温くよくわかります。

私がミクやIAを描くとき、「公式」や「楽曲/動画」のファンアートという明確なこの次創作ではないことが多いのも事実です。それでも、大元というものがあるのはわかってる。
「私は一次創作としてミクやIAを描いています」とは言えられない、やや込み入った事情があるのも、ボカロを描くことの特徴のつかもしれません。

ただ、質問者さんが、私の描くミクやIAを二次創作よりも秘として見てくださっていたり、ボーカロイドのことを"憧れのなもの"と捉えていることは、たぶん温くよくわかります。
創作が何か、というのも人それぞれなところですが、自分は「自己表現の手段」として取り組むタイプだと思います。なので質問者さんには、**自己表現の手段として自然にボカロを使っている**のを楽しんで頂いているんだろうと思いました。

■ミクとIA

自分はボカロの中でもミクとIAを描くことが多いのですが、質問文でどちらも挙げて頂いているのも有り難いです。それぞれに「描くようになったきっかけ」があり、その時々で関係しあっているのですが、その全てを書くと長くなりすぎると思ましたので、
Andedがキのようなスタイルで（VOCALOID）に関心を持つようになった理由に絞って書いてみたいと思います。

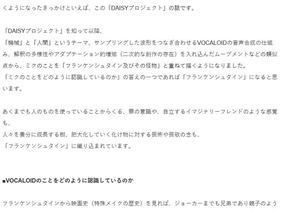
■VOCALOIDを描き始めたきっかけ

「DAISYプロジェクト」の話が好きです。
ボーカルシンセサイザーの歴史の中で、現在のVOCALOIDに至る開発研究がスタートしたとき、「DAISYプロジェクトというコードネームで呼ばれていました。この話を知ったき「機械の歌声」が自分の中に響き渡るのを感じた気がします。

プロジェクトもの由来となっているのは IBM704（7024）が歌った「Daisy Bell」。コンピュータが歌った初めての歌として知られています。
この現実世界のエピソードを受けて、映画「2001年宇宙の旅」に登場するAIキャラクター「HAL9000」がこの歌を歌っていた、なんて、とうにおなじみ天才さまする。当時のおもしかったんです。

遠い遠い技術革新の時代であった1960年代から現代まで中一次に駆ガれた感じでしょう。「Daisy Bell」はフィクションと現実世界を行き来しながら「機械」と「歌」（「テクノロジー」と「人間」）をテーマに、一本の歌がった物語を紡いでいるようでした。自分が生きていく機械さえもその歴史の流れに変えられてようやく「遠い世間で流行っているボーカロイド」が、今も続く好奇心の源に変わったことを覚えています。

この「世界で初めて機械が歌った歌」「Daisy Bell」の物語を モチーフ にした作品があります。自分一人では到底絵不倉わすることのできなかった、遠おから未来へと語る長い旅を教えてくれたのは、この曲だろうと思います。



皮肉の機械達と先人達へのリスペクトを「巡音ルカ」が歌うこと。「VOCALOID」でしか成し得ない魅力を持った「ボカロ曲」の一つです。

VOCALOIDとは何か、そのキャラクター達でしか表現できないものは何か、そんなことを考えてボカロを描くようになったきっかけといえば、この「DAISYプロジェクト」の話です。

「DAISYプロジェクト」を知っては以降、
「機械」と「人間」というテーマ、サンプリングした波形をつなぎあわせるVOCALOIDの音声合成の仕組み、解析の多種性やアダプテーション的機械（二次的な創作の存在）を入れ込んだムーブメントなどの様に点から、ミクのことを「フラクンクシュタイン及びその個物」と重宝て頂くようになりました。
「ミクのことをどのように認識しているのか」の答えの一つでもあれば「フラクンクシュタイン」になると思います。

あくまでも人のものを使っていることからくる、罪の意識や、自立するイマジナリーフレンドのような感覚も、
人々を異分に成長する相、助力たしていく仕物に対する民州の民政のきも。
「フラクンクシュタイン」に縁り込まれています。

■VOCALOIDのことをどのように認識しているのか

フラクンクシュタインから映画史（特撮メイクの歴史）を見れば、ジョーカーまでも兄弟であり続けのような関係になる、という日は到頭が遠くなる日も来ずか、私にとって「ボカロ」は、**あらゆる創作作品へアクセスするための装置**のように感じています。

映画「ジョーカー」が、あるいは主人公アーサーが、映画内外の人々から絶大な共感と支持を得たのは、ただの人だったアーサーに「ジョーカー」という仮面をつけて、成を被せ、下駄を履かせたからだったように思いました。
本来置換を使たい、もしくはそれを共感へ届ける初めない、声無き弱者の代表がアーサーでした。私がこの映画を観ている間中、思い出していたのはミクのことです。

弱者の「声」となり、表現を通くミューズでもある
彼女たちが共ならば、私共は魚です。

キャラクターの声や形を借りることで、
一創作者が誕いたものを一創作作品として見ることを、妨げられている風潮もあるわけです。創作者と創作物の、そういう関係性でする「VOCALOID(ボーカロイド)」でしか表現できない魅力になっている。（得意分野と言っても良いかも）

ボカロの何処を見るかで認識は変わります。自分の中でもその時々で変わっているようにやないかなと思います。ブーム初期などに、こういうものがある、と初めて認識したものとも今は変わっています。
そういう国もあるよね、という話にしかならない感じは「初音ミク」一つに限って今同じことが言えるため、自分で話していくときに「ボカロ」の話をしているのか「初音ミク」の話をしているのか様々区別が難しくもなってきます。
「ボカロ」というシニフィアンに「初音ミク」というシニフィエがくっついてしまった感じ。

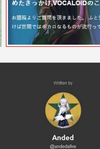
「言葉」は単語一つによってではなく他の言葉との関係の中で意味が生じるわけですが、ずっと「ミク」ばかり扱っていたことから「IA」が加わることで、この「ボカロ」と「ミク」を結ぶ辺り線すことができるようになった気がします。
自分にとってのミクやIAについては、これまでの作品の中で表現してきたとも思うので、あまりここで説明はできないのですが、少しでもご質問の変えになっていれば嬉しいです。

ご質問もお心遣いも、感謝しております。
質問者さんも疑かくしてお過ごしください。ありがとうございました！

Oct 7, 2021
Anded

メッセージを送る

OTHER SNAPS



Written by
Anded
@andedaiko
Anded's BLOG
「PVやってみた」制作中の生存報告

go.at
Powered by

Oct 4, 2021

【質問回答】使用ソフト、絵を描くときに意識していること、参考になったイラスト教本

by Anded

お疲れさまです。andedです。

質問をのちも結構届いたりしていたので、ぼちぼと参考にするために記事で残しておこうと思います。ご紹介やメッセージへの感謝につきましては、ありがとうございます。なので「はてなブログ」に変更することで質問のようなお返しとしたいと思います。

Andedのお絵かきは使用しているソフトと使用されたツール（映像、イラスト、アニメーション）を教えていますか？

私から見てAndedさんは非常に器用で、イメージ力に長けているのがすごくと参考にさせていただいております。**絵を描くときに意識していることなどはありますか？**

また「Andedさんが参考にしたり、**参考になったと感じたイラスト教本**などはありますか？

出典：https://pixabay.net/de/search/?200%5Bw%3D0-4K%2C4096-0%7Ftab%2F27

質問文の中でたくさんいるのが使用されたソフトと使用されたツールについてです。それらを、ざっと挙げ、少し表に整理してたりします。

●使用ソフト

出来たて。**CLIP STUDIO PAINT**（クリスタ）と**After Effects**（AE）を使っています。

使用ソフトはPCスペックや環境によりその都度変わってきたので整理によっては使っていないこともあります。最初使ったのはクリスタ（ペイント）とAE（アニメーション）（映像）？どっちかですが使用頻度でいえばクリスタ。1ソフトを使い続けるのに慣れたと覚えるまで、1ソフトを使い続けるのに慣れたと覚えるまで。1ソフトを使い続けるのに慣れたと覚えるまで。1ソフトを使い続けるのに慣れたと覚えるまで。こんなん、使い慣れてから記載しと書きます。

質問文で使ってはいたものの使用されたAnimate（Flash）やPhotoshopやPhotoshopやPhotoshopはちゃんとうちゃんとうちゃんとう

Oct 1, 2021

ね、ヒツジの絵をかいて

by Anded

何かあればお題箱にお寄せください、というツイートしましたところ気になるお便りを頂きましたのでご紹介させてください。

> **羊の絵を描いてくださると嬉しいです。例えば電気羊やIAでも、お好きな羊を描いてくださると嬉しいです。**

全文：https://odaibako.net/detail/request/20017a18-16e7-4875-81a6-38631632f68d

こちらに手短に答えるなら「今も昔もずっと描き続けていますよ」でしょうし「ありがとういつかミクも描きますね」なのですが、もう少し丁寧に書いてみたいと思います。

私は『**星の王子さま**』を愛読書にしておりますので、この本の内容に引っ掛けたメッセージなのだと受け取りました。おそらく投稿者さんは『星の王子さま』を知っている方で、Andedが当書を愛読していることもご存知なのかもしれません。知っている方ならではの気の利いたお便り、ありがとうございます。そうじゃなければ「怪文による羊乞食」をされている状況なのでたすけてください。

『星の王子さま』といえば「大切なものは目には見えない」のフレーズが有名な本です。
飛行機乗りになった主人公が砂漠に墜落し「小さなこども」に出会います。その子は自分のことを「他の星から旅してきた王子」だと言い、主人公に「**羊の絵を描いて**」と頼んでくる。
絵が上手に描けなかった主人公は、これに羊が入っているよ、と言いながら箱を描いて渡すのですが、王子は箱の中に羊を見つけて喜ぶのです。

王子さまが星に帰るのを見届けるまでのお話ですが、最後に主人公から「読者へ向けたリクエスト」が添えられます。それが「王子さまを見つけたら**手紙を書いて**知らせてほしい」というもの。

今回私はお題箱を利用して「手紙をください」に近いことをしているわけですから、それに応えてくださったのが今回のお便りというわけです。それが『星の王子さま』を込めた「羊の絵を描いて」というメッセージなのだと思います。
リクエストするような文面なんですが、おそらく逆と言いますか、投稿者さんが私の描いてきたものをよく見ていてくださっていることを伝えてくださっているのだと、そんな気がしました。
私がよく描いているのはミクとIAですが、お便りの文中にミクが書かれていないのは、優しさだなあと感じましたし、ある意味叱咤激励を頂いたように思います。

遭難という危機的状況に陥って湧いたおとぎ話といえば、『ライフ・オブ・パイ』がより同じ性質を持つ作品でもあると思います。困難な状況で自分を生かすものが、小さな男の子による安らぎか巨大な虎による恐怖かの違いはありますが、私はこれらを「イマジナリーフレンドもの」として、現実には存在しない者を物語を通して共有する作品として受容しています。

『パイ』で語られるのはトラとの幻想的な漂流物語。しかし最後、真実の話としてトラのいない現実的な遭難話を提示します。『王子』で言うとこころの、人のわかりそうなことに話をかえたのですね。
そして、おとぎ話と真実の話、好きな方を選べと迫られます。

誰かの創作話を選び取り「共犯関係」を楽しむジャンルは様々ありますが、『星の王子さま』の話をするとき、私はバーチャルと現実の虚実皮膜に生じた初音ミクのことを思い出さずにいられません。

お便りありがとうございました。

× × ×
というわけで、早速いくつかご質問のほうも頂いております。ありがとうございます。
お答えできるご質問にはブログのほうで回答していければと思いますので、のんびりお待ちいただけますと幸いです。

回答記事では、お便り全文へのリンク*と「ご質問内容」を抜き出して掲載させて頂ければと思いますのでご了承ください。

*お題箱に投稿頂きますと、個別ページが出来ます！

ODAIBAKO
こんなかんじ！ - お題箱
odaibako.netでこれを読む >
powered by embedly

Oct 1, 2021
Anded

メッセージを送る

OTHER SNAPS

Written by
Anded
@andedalive
Anded's BLOG
「PVつけてみた」制作中の生存報告

g.o.a.t

Sep 25, 2021

僕は、彼に、僕のおもちゃをみんなやる、と言った。

by Anded

アイコンはあまり変えないほうがいいよ。あなたが誰だかわからなくなる。

SNSのアイコンをコロコロと変えてしまう人がいるけど、あれはあまりよくないね。そう言ったその人は10年近く経ったのも同じアイコンのままであるもんだから、そういう一本筋の通ったとこにはふと感心してしまう。アイコンを変える例として言っていたことが無いではなかったが、押し黙ってしまった。

今でもアイコンを変えるときには、優等生にチクチク言われた思い出が記憶の引き出しの奥でカタコト音を立ててくる。そんな遠くやさい警鐘を聴きながら、この春もアイコンを変えた。これってばもう惨になっているんじゃないかって思うんだよ。お互いの性分には。

現在のアイコンに使った絵（本記事の表紙の元絵）や下関する「clam」とキャプションを添えた二枚の絵は、よく描けた、というわけではないものの、自分がツイッターを通じて感じているものも表現してあって、ツイッターにいる間やしばらくは残しておきたいと思えるものだった。

ツイッターアカウントを作ったとき「描きたかったもの」はサイトの方へ移してしまって、今やメディア欄には大事なものは乏し残っていない。まるで面の抜けた日に笑うのを見られるような気恥ずかしい有り様になっているので、せめて自分の持っている感情が目に留まるように、と消した中から再掲したものでもある。

絵を保管することはは貴い込んでカビやシミにならないように、たまに壁に飾ってやるのがいいらしい。季節ごとに掛けかえて中くらいがいい。そういうのは嫌いじゃなくて、そんな気持ちでたまに過去絵を再掲することもある。季節が変わればまた引っ込めたくなるのだけど。

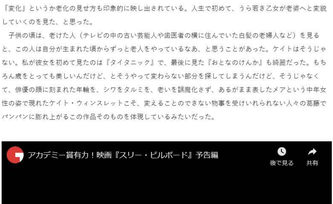
人物を描くときコントラストを意識するように。線の標本では美しく見せるため生きているときよりも羽を大きく広げて固定する。ツイッターでは毎日数え切れないほどの絵しい線が収集家に晒まっては意味損失しているように見える。それだけうしようなく居心地が悪い。そういう風に感じる自分が変わらない限り、たとえどこへ越したとしても住みにくさは大して変わらないんだろう。

ところで、漱石の「猫」では高慢な人を指して「仕組的」といった表現が出てくる。岩に張り付いて動かない惨を出不精にも見立てているらしい。カート・ヴォネガットの「猫」でも「Like oysters their eyes」というふうに仕組（oyster）が出てくる。口や目を固く閉じる イメージらしけ、やはりそこは「見になりたい」みたいに放見（clam）と言ったほうが通りが良い気がして、なんだかかな、引っ張かりのある表現だった。見事、石頭にしっかり張り付いた。

ヴォネガットは「ニーバーの祈り」を以下のように引用する。

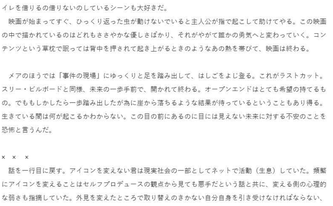
> 生きることに不熱心なビリーではあるが、彼のセルフの壁には、彼の生活信条ともいうべき祈りの言葉が額にいれてかかげられていた。それを見て、生きる勇気を与えられたとビリーにいう恩毒も多かった。
> 神よ願わくばわたしに
> 変えることのできない物事を
> 受け入れる落ち着きと
> 変えることのできる物事を
> 変える勇気と
> その違いを常に見分ける知恵とを
> さずけたまえ
>
> *引用元：　カート・ヴォネガット　スローターハウス5*

世界を変えるのは無理でも自分自身なら変えられる。なんて言うが、それだって十分難しい。最近観た作品がこういう変化について考えるものだった。



『メア・オブ・イーストタウン』は全7話のドラマで、一つの事件（あるいは変えられない過去）に割中の人物もそれを見る側も長い時間をかけて向き合っていくことになる。また、俳優ケイト・ウィンスレットの「変化」というか老化の見せ方も印象的に映し出されている。人生で初めて、うら若き乙女が老婆へと変貌していくのを見た、と思った。

子供の頃、老けた人（テレビの中の古い芸能人や歌舞伎の横に住んでいた自髪の老婦人など）を見ると、この人は自分が生まれた頃からずっと老人をやっているなか、と思うことがあった。ケイトはそうじゃない。私が彼女を初めて見たのは『ダイヤニック』で、最後に見た「おとなのけんか』も続新だった。もちろん晩年とっても美しいんだけど、とそうやって変わらない部分を探してしまうんだけど、そうじゃなくて、俳優の顔に刻まれた年輪を、シワをシルミとを、老いを訴風化が、あるがままに表したメアという半女性の姿で現れたケイト・ウィンスレットこそ、変えることのできない物事を受けいれられない人々の葛藤でパンパンに膨れ上がるこの作品そのものを体現しているみたいだった。



映画『スリー・ビルボード』は結論を出さない。良い方向へも悪い方向へも可能性を残したまま幕を転がし、復讐のために「犯人」を殺すかどうかさえ「誰すがら決めればいい」と言って終わる。あと、とにかくものを燃やす。

メアが人生のどこかで長いことを時間のとまってしまった人ならば、スリー・ビルボードの主人公三人は皆鉄砲玉のように動き回る。二作の主人公の抱える構造は似ているんだけど、スピード感も全く違いそれも面白かった。かたや踏み出し、かたや踏みとどまる。

三枚の看板を張り変えたことで、三人の人生が変わっていく。スリー・ビルボードの人々は落ち着きも知恵もないが誰チャーミングで表しい。運行まや結末が気がかりで心配で愛おしい。本筋とは関係ないがトイレを復りるの傍りないのしているシーンも大好きだ。

映画が始まってすぐ、ひっくり返った虫が動けないでいると主人公が指で起こして助けてやる。この映画の中で描かれているのはどれもさやかな優しさばかり、それがやがて風穴の勇気へと変わっていく。コンサンゾという軍校で眠っては背中を押されて起き上がるとき のようなあの熱を帯びて、映画は終わる。

メアのほうでは「事件の現場」にゆっくりと足を踏み出して、はじどをよじ登る。これがラストカット。スリー・ビルボードと同様、未来の一歩手前で、開かれて終わる。オープンエンドはとても希望の持てるもの。でももしかたら一歩踏み出したが為に崖から落ちるような結果が待っているということもあり得る。生きている間は何が起こるかわからない。この目の前にあるのに目には見えない未来に対する不安のことを恐怖と言うんだ。

× × ×

話を一行目に戻す。アイコンを変えない者は現実社会の一部としてネットで活動（生息）していた。推察にアイコンを変えることはセルフプロデュースの観点から見ても悪手だという話と共に、変える側の心理的な弱さも指摘していた。外見を変えたところで取り替えるのさかい自分自身を引き受けなければならない、責勤には責任を持て、と言う人だった。聡明な彼は常に人生の指針を持ち、計画しそれを実行する力もあった。生い立ちや現在の仕事、未来への展望まで上手く言葉にしてネットに放っていた。

他人を見るとき親戚的な目こそしてはいなかったけれども、奴ごそ私の「エーミール」にちがいないと思えるプレッシャーがあった。

こちらと、へラヘラその場を取り繕うか、相手が納得してくれそうな適当な理由を探し出して思ってもいないことをヘラヘラ口にする言語不自由な自が出る。発した「言葉」が周りの人にとって「にゃあ」以上の意味を持たないとなれば、口取は少なくなるというものだろう、というのを仕組のように閉じこもる理由にもしている。わかってくれても言わないが薄つかないように身を固くしている。これで良いとは思っていないが、変えられないとも思っている。

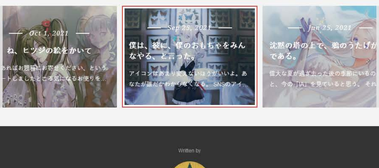
そんな人生薬が近でも、何を変えても変えないも「誰すがら決めればいい」やって映画を見たっ少し走り出したい気持ちになって、書きかけだったこの記事を書き上げることにした。

「少年の日」は思い出に変わったよ。

Sep 25, 2021
Anded

メッセージを送る

OTHER SNAPS



Written by
Anded
@andedalive
Anded's BLOG
「PVつけてみた」制作中の生存報告

g.o.a.t

Jun 25, 2021

沈黙の塔の上で、鴉のうたげが酣である。

by Anded

偉大な夏が過ぎ去った後の季節にいるのだと、今の「IA」を見ていると思う。
それはそうと日々投稿されるボカロ曲を追いかけていると、春には春の、夏には夏の曲が増えていくので、そんなことからも季節の移ろいを感じてしまう。
それにリアルタイムの季節感とは別の、在りし日の夏や過ぎ去った春も歌われる。そうした喪失の残骸を抱えた人が、あげざるを得ない声かのように作品を生み出して、誰かが囚われてしまった「夏」を遍在させている。そんな人々の記憶、思い出の切れ端を拾い集めていると、さながら脳の中の幽霊がたゆたう海を見ているようだと思い至る。

ところで来年はIAも10周年を迎える。その当日の自分はきっと「もっと描いておけばよかった」と忸怩たる思いをしているだろうから、せめてもの感じで今年はファンアートも描いていきたいと思っているのだけど、すでに先月も描けていないし、今月もなかなか厳しい。うまくいけば季節に合わせてジューンブライドのイラストが仕上がる予定だった。ラフを考えている間に、IAを夏の花嫁のように描きたいと、暗い建物内から空の下へロケーションを移したところで時間切れ。

そうこうしているうちに、自分が映像のモチーフにルネサンスを使ってから今月で二年が経っていた。この二年の間にもボーカロイドの方面では新しい時代の萌芽が数多く見えたけれど、今再び高まる波に乗れず取り残されていく彼女のことが、中世の秋とも重なって見える。
ともかく今年も夏は来る。私も、できるだけ後悔のないよう描いていきたい。

Jun 25, 2021
Anded

メッセージを送る

OTHER SNAPS

Written by

Anded
@andedalive
Anded's BLOG
「PVつけてみた」制作中の生存報告

g.o.a.t

Jun 4, 2021

ギコギコしちゃうぞ

by Anded

『キツイ映画』を観るのがさ、年々辛くなってきたよ。
年上の映画好きからそんな話を聞いたのも、はやくも数年前のことになる。「へえ、そういうもんですか」なんてつれない返事を、その時の自分はしたと思うし、今日同じ話をしたら似たような相槌を打つかもしれない。こういうのは思い知るものなのだ。

昔当たり前にできていたことができなくなる。1の力でやれてたことに5も10も消耗してしまう。そういう談話があると、人の集まらなくなった秘密基地に取り残されることばかり想像したけれど、明日には自分が去る側になっているかもしれない。
じゃあまあ観られるうちに観ておこうじゃないかって、今日もサブスクビデオをチェックしている次第である。

『キツイ映画』の話を聴くと、サブカルチャーの奥深くで死に絶えたアンダーグラウンドカルチャーの残骸を探しに行った小さな旅を思い出し、爛々と「怖いもの見たさ」が湧いてくる。映画という絶対安全な恐怖に虚勢を張る幼稚さは自分の中に未だ健在と自覚しているけれど、日常には溶け込まない異物としての彼らとの出会いの日々は、やはり特別なものだったろうと思う。

「映画が来た、映画が来た！」と賑やかに子どもたちが椅子を持って集まってきた。村に移動映画がやって来て、今まさに恐怖映画フランケンシュタインの上映が始まろうとしている------『ミツバチのささやき』の冒頭のように、テレビの前に椅子を運んで来てビデオ上映会を始めるのが、私にとっての『映画を観る』だった。
今のようなサブスクが無かった時代には動画共有サイトの無断転載にも随分と世話になった。You Tubeはまだ尺の長い動画がアップロードできなくて、TVアニメの一話なんかは三分割にされていた。もっと長い動画があるらしいと、ニコニコ動画に足を踏み入れた。

大無断転載時代のニコニコ動画。動画説明文には続きのリンクがあるだけの、『古い映画』と題された動画が転がっていた。画質も悪ければ映像も古めかしい。

男が屋根裏を這っている。どうやら彼は覗きが趣味で、天井に空いた小さな隙間から部屋の様子を見て回っているようだった。その部屋には女が居た。大きくて不格好な革の椅子に腰掛けている。革の下に何者かが潜んでいるように椅子は不自然にうごめいていた。これはおそらく『江戸川乱歩猟奇館 屋根裏の散歩者』が転載されたものだったんだろうと後年わかった。

乱歩小説の映像化作品はじめ、エログロと呼ばれるような、センジュアリティかつグルーサムと主張する得体の知れない作品たちと遭遇するには、当時のニコニコ動画はおあつらえ向きな場所だったように思う。悪いものを悪い方法で見るのは、覗き見にも似た背徳感があった。
かの阿部定事件を題材にした『明治・大正・昭和 猟奇女犯罪史』、有害図書扱いとなって消えたギニーピッグシリーズ『マンホールの中の人魚』、巷で噂のフレンチスプラッターホラー『屋敷女』……「ヤバイ映画があるらしい」という情報は見れども、簡単に手に入らない映画たち。
屋根裏づたいに部屋から部屋へ移動する男を追いかけて、動画から動画へ進んでいった。作品の背景や主題どころかタイトルも分からないまま、ニコニコ怪物園の薄暗い思い出になってしまったものもある。

ところでこれらが『キツイ映画』かと言うと、そういうことじゃないよなとも思う。『徳川女刑罰絵巻 牛裂きの刑』とかそういう悪趣味な方向じゃなくてさあなんてケラケラ笑いあえたらいいね。

Jun 4, 2021
Anded

メッセージを送る

OTHER SNAPS

Written by
Anded
@andedalive
Anded's BLOG
「PVつけてみた」制作中の生存報告

g.o.a.t

Mar 14, 2021

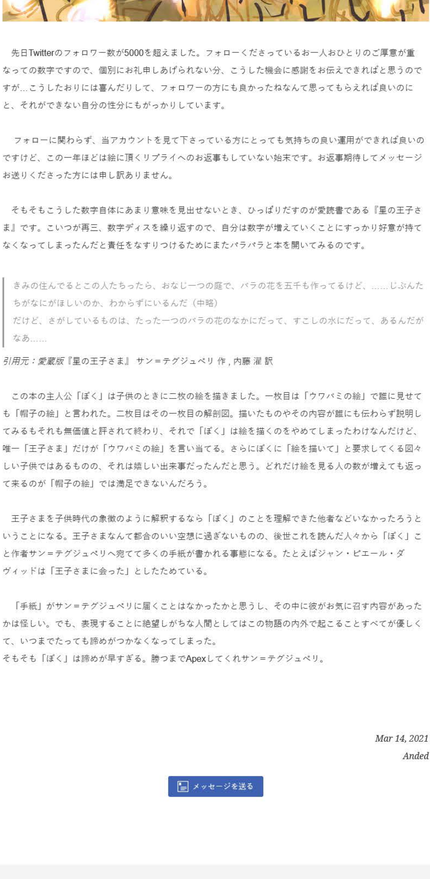
なんでもない日おめでとう

なんでもいいから一つ、新しいことを始めてみましょうよ。
友人の提案に乗って先月から「Apex Legends」を始めてみました。休憩時間にゲームを起動。慌ただしく戦場に飛び降りてマップのあちらこちらへ走り回っていると子供時代の密度感を思い出すというか、小学校の休み時間なんてあんな短い時間の中でドッジボールや鬼ごっこ、大縄跳びとよくこなしていたなって（今はそんなの無理だなって）思っていたのが、大人になってもまだこんな遊べたんだ！なんてふって。見ず知らずのプレイヤー達との戦限りの仲間になって、ドタバタしているだけで初心者ながらも結構楽しいのでありました。

FPS/TPSの操作感は絵を描くときのアプリ操作にも良い刺激がある。武器切り替えや照準合わせを、PCで絵を描く作業に置き換えると…？みたいな発想でCLIP STUDIOのショートカットを設定すると使えていなかった機能も活用するようになる。武器選びとペン選びも似ている気がするし、今回もゲームとクリスタ双方向で影響を受けた気がする。

ボタン配置の設定だけで絵もゲームも上手くなるわけではないので、とにかく失敗の日々でもある。初マッチでは注射器も拾えずにいると仲間にも殴られたのが辛かった。最後尾をついていくので精一杯で、文字通りチームのお荷物になる。これだけではやる気も起きないんだけど、解やかに立ち回る仲間に何度も助けられ、野良三人でチャンピオンになったときには嬉しくて飛び跳ねてしまうし、（仲間の一人は空に向かって銃を撃ち続けもう一人は屈伸し続ける）自分もこの人達みたいなプレイがしたいと思ってしまう。
もっと上手になりたいって想いが素直に湧いてくる。初心を思い出すって感じがしたのもよかった。

とはいえ目新しい事ばかりの時期は終わり、「新しいこと」特有の脳汗は落ち着いてきました。今月もまた何か一つ、新しいことを始められたらなと味を占めた気分ではいるのですが、やはり時間は有限でゲームをした分だけ余暇が埋まるとブログも書けなくなってしまったので、今月はこちらも更新していければと思っているところです。



先日Twitterのフォロワー数が5000を超えました。フォローくださっているお一人おひとりのご厚意が重なっての数字ですので、個別にお礼申しあげられない分、こうした機会に感謝をお伝えできればと思うのですが…こうしたおりには書んだりして、フォロワーの方にも良かったねなんて思ってもらえれば良いのにと、それができない自分の性分にもがっかりしています。

フォローに関わらず、当アカウントを見て下さっている方にとっても気持ちの良い運用ができれば良いのですけど、この一年ほどは絵に頂くリプライへのお返事もしていない始末です。お返事期待してメッセージお送りくださった方には申し訳ありません。

そもそもこうした数字自体にあまり意味を見出せないとき、ひっぱりだすのが愛読書である『星の王子さま』です。こいつが再三、数字ディスを繰り返すので、自分は数字が増えていくことにすっかり好意が持てなくなってしまったんだと責任をなすりつけるためにまたパラパラと本を開いてみるのです。

> きみの住んでるとこの人たちったら、おなじ一つの庭で、バラの花を五千も作ってるけど、……じぶんたちがなにがほしいのか、わからずにいるんだ（中略）
> だけど、さがしているものは、たった一つのバラの花のなかにだって、すこしの水にだって、あるんだがなあ……

引用元：愛蔵版『星の王子さま』 サン＝テグジュペリ 作 , 内藤 濯 訳

この本の主人公「ぼく」は子供のときに二枚の絵を描きました。一枚目は「ウワバミの絵」で誰に見せても「帽子の絵」と言われた。二枚目はその一枚目の解剖図。描いたものやその内容が誰にも伝わらず説明してみるもそれも無価値と評されて終わり、それで「ぼく」は絵を描くのをやめてしまったわけなんだけど、唯一「王子さま」だけが「ウワバミの絵」を言い当てる。さらにぼくに「絵を描いて」と要求してくる図々しい子供ではあるものの、それは嬉しい出来事だったんだと思う。どれだけ絵を見る人の数が増えても返って来るのが「帽子の絵」では満足できないんだろう。

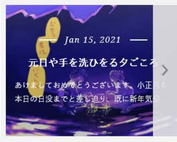
王子さまを子供時代の象徴のように解釈するなら「ぼく」のことを理解できた他者などいなかったろうということになる。王子さまなんて都合のいい空想に過ぎないものの、後世これを読んだ人々から「ぼく」こと作者サン＝テグジュペリへ宛てて多くの手紙が書かれる事態になる。たとえばジャン・ピエール・ダヴィッドは「王子さまに会った」としたためている。

「手紙」がサン＝テグジュペリに届くことはなかったかと思うし、その中に彼がお気に召す内容があったかは怪しい。でも、表現することに絶望しがちな人間としてはこの物語の内外で起こることすべてが優しくて、いつまでたっても諦めがつかなくなってしまった。
そもそも「ぼく」は諦めが早すぎる。勝つまでApexしてくれサン＝テグジュペリ。

Mar 14, 2021
Anded

メッセージを送る

OTHER SNAPS



Written by
Anded
@andedallive
Anded's BLOG
「PVつけてみた」制作中の生存報告

g.o.a.t

Jan 15, 2021

元日や手を洗ひをる夕ごころ

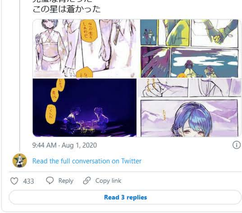
by Anded

あけましておめでとうございます。小正月も本日の日没までと差し迫り、既に新年気分でもないかと思うのですが、今年もよろしくお願いします。

年を跨いでしまいましたが、去年から新しく「PVつけてみた」動画を作っています。こちらを完成させるのが今年当面の目標です。楽曲の利用許可を下さった作者様のほうへも早く完成のご報告ができればと思うのですが、まだまだゆっくりとしか進めません。完成は遠いです。

仕事の合間に制作の合間に、日々のらくがきも。という感じで、やっていることはいつも通りになるかと思いますので、見て下さる方もどうぞ無理のない範囲でお付き合い頂ければ幸いです。

水面下での動画作業に差し障らないよう、去年は漫画をあまり描かないようにしていました。ただ、季節感のあるものだけはその季節のうちに描かなくっちゃと口実に、夏に一つ。これにリアライで届ける形で年末にもちょこっと描いていました。

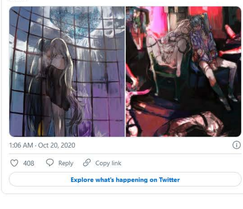


分かりにくい見た目になっていますが、ミクとIAです。

『今年はイラストも描く ぞ』と意気込んで、昨年の一時Instagramやイラスト投稿サイトも登録していたんですが、現在各アカウントは削除、または放置状態になっています。フォローくださっていた方はすみません。

イラストを投稿するときカテゴリを選んだりタグ付けをするんですけど、『初音ミク』や『IA -ARIA ON THE PLANETES-』といったキャラクターのタグを付ける度に、自分はミクを描いているのか…？自分はこれをキャラクターが好きな人に見てもらいたいのか…？などと自問自答するのが辛くなってしまったのと、並べて残しておきたいようなイラストが揃けなかったのが理由です。描いたものを雑に流してしまえるTwitterが一番性に合っているんだと思います。

去年は、『TwitterでミクやIAを描くこと』についての所感、といったものを何度か描いていました。一年通して自分の中に流れていたムードと言ってもいいかもしれません。年の瀬ギリギリでそうしたムードをひとまず描き切ったのと、良くも悪くも自分らしいものが描けたなって気分で新年を迎えられたので、今年は残しておきたくなるような絵も描けるだろうって気もしています。

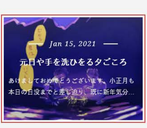


*あせってはいけません。頭を悪くしてはいけません。根気ずくでお出でなさい。世の中は根気の前に頭を下げる事を知っていますが、火花の前には一瞬の記憶しか与えてくれません。うんうん死ぬまで押すのです。*と、漱石が芥川らへの手紙に書いたように、今年こそ牛のように歩んでいければと思います。この手紙の話って何度かしているんですが、できれば馬になりたいし火花のように散ってしまいからこそ何度も言い聞かせているのかもしれません。

Jan 15, 2021
Anded

メッセージを送る

OTHER SNAPS



Written by
Anded
@andedalive
Anded's BLOG
「PVつけてみた」制作中の生存報告

g.o.a.t

Jan 4, 2021

兎角に人の世は住みにくい。

by Anded

師走は文字通り走り回っていたのですが、それにしたってあれよあれよという感じで過ぎていき、野分に押されるように2020年もすっかり流れ去ってしまったなあというありさまで、新年のご挨拶にもまだ身が入らないような気分で過ごしています。

少しさかのぼり11月末頃のこと、@andedalive アカウントを作ってからちょうど三年というタイミングでした。Twitterはアカウント作成の周年日を通知で教えてくれるというわけでその通知画面を見ながら、三年、三年かあと、次のような話題を思い出していました。三周年なんてのを記念日と言うような晴れ晴れとした気分は無かったものの、なんだか少し特別な数字だったんです。

「リスナーは三年で入れ替わる」

なんて言われているのをネットラジオで耳にしたのは五年前。人の思考や好みは変わる。それに伴って番組を聴くのをやめる人もいれば新しく聴き始める人もいて、ラジオ番組をはじめ何かしら活動している人や作品などを取り巻くコミュニティの中は循環している。だから自分が当たり前と思っていることでも、最近聴き始めた人達にとっては知らないこともある。そしてそういう人達にも知って欲しいのだと、パーソナリティが長年応援し続けているインディーズミュージシャンについて改めて語る場を設けた回だった。

「大事なことは何度も話さないとだめだ」

ってことをニコ生で配信していた人がしきりに言っていたのは10年近く前のこと。一度言ったきりでそれが人に正しく伝わっているとは思わない。自分がうまく伝えられていないかもしれない。相手がきちんと受け取れていないこともある。と、お決まりの説明が加わる。正直、毎回同じことを聴かされる身としてはやや面倒な（あるいは既に知っている自分のことを無視されるような）気分がはじめのうちあったのを覚えている。自己主張が不得意な自分はついでに萎縮もした。

映画などでは大事なことほど直接的な表現は避けサラッとやるのが良いとさえ言われるが、言論人たろうとする〈一人の配信者〉対〈見知らぬ多数のリスナー〉の対話はそういうわけにはいかなかった。芸術に変えてしまえば聞けた解釈にゆだねてなあなあにできるものを全部言葉にして、結果起こることを全て引き受けていた。その人の育んできた価値観や想いをまるっと言語化すると、角が立つ。窮屈になる。それでも流されない人だったことは今でも尊敬している。

新たに番組を聴くようになった人たちにも知って欲しいとパーソナリティに紹介された『SASAYAMA』の定期公演へ行ったのは2016年12月。いわゆる単独弾き語りライブなのだけど、一年通したテーマが設けられている。その年の12月は神話のプロメテウスにちなんだタイトルが付けられて、同名の楽曲も初披露された回だった。

私が座った客席は最前列だったのでステージまで「間三尺」と思えるほど近かった。それでもステージ上のミュージシャンというのは、"平面以外に飛び出して、立方的に"なりながらも「面中の人物」そのもので、客席のこちらからは"全力を挙げて彼らの動作を芸術の方面から観察する事が出来る。"と、そんな距離に感じた。そういう孤独な姿は、人がやって来るのを待つ以外ない「橋」のようでもあった。

2020年12月のテーマが「カフカの橋」なのは、やっぱいいなと思った。ライブ配信を聴いていると『プロメテウス』が流れ、2016年のことが頭をよぎった。ソールドアウトに沸く当時の会場の熱気。これからだと、誰もが思っていた気がする。途中活動休止になりながらの2020年の公演は、悔しい分だけいまに「寝返りを打つ橋」と思える恐ろしさがあって、なんだかんだ凄く良い回だと思った。

当時まだまだ新曲の立ち位置だった『群青』で印象的に繰り返されるフレーズがある。

「会いたい」

これを聴く自分の中にはかなりはっきり「会いたい」と想う対象があって、自分のそれは生きた人間ではなくて、自分の言葉にすると「会いたい」は「描きたい」と同じになる。かんたんな言い方にはなるけど、自分の中で埋没していた創作意欲が刺激されるようだった。端的に言うと、私はミクが描きたかった。IAが描きたかった。表現がしたかった。自分の創作のすべてを彼女たちに預けていた。そういう気持ちに言葉をもらった感じがした。

それが叶った現在も、人の世ってTwitterの水は合わずで、住みよくしてくれるはずの画策に勤しむも悪化の一途であるようで、越すことのならぬ住みにくい所にいよいよ行詰りが見え神経衰弱にて狂うのも間近と思えるのではありますが、こんなことを書くのは漱石ブームが終わらず気取っているだけで、今のところ描きたいものがありなんとか描き続けているのだから、幸せだと思わずにはいられません。あと好きな作品についても、もうちょっと感想とか言いたいですし、長くなりそうならブログの方へというように、こちらの更新も今年も続けていくかと思います。

そんなことに思いを馳せる2020年の暮れでありましたが、引越し手伝いなどが重なっての身辺多忙といった具合でしたので、記事タイトルのほうは『草枕』から頂戴しました。下のように続いていきます。

> 住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。（中略）
> 越す事のならぬ世が住みにくければ、住みにくい所をどれほどか、寛容て、束の間の命を、束の間でも住みよくせねばならぬ。ここに詩人という天職が出来て、ここに画家という使命が降る。あらゆる芸術の士は人の世を長閑にし、人の心を豊かにするが故に尊とい。

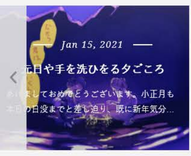
引用元：夏目漱石,草枕

私は優れた作品に勇気づけられた。絶望的な状況におかれたとき、詩にひらめきを得た。ただの言葉だが、打ちひしがれどん底に沈んでいた私に立ち上がる力をくれた。
こちらは好きな映画の台詞。プロメテウスを聴いていたときも、噛み締めていたっけな。

Jan 4, 2021
Anded

メッセージを送る

OTHER SNAPS



Written by
Anded
@andedalive
Anded's BLOG
「PVつけてみた」制作中の生存報告

g.o.a.t

Nov 26, 2020

あの書斎は冬は寒かつたでせうね

by Anded

校舎の窓が割れた。ペットボトルロケットが飛んだ。そうだっだ、その日は鯉かの悪戯で朝から一階が騒がしかった。黙然と階段を登っていくと騒動の中心であった中庭も小さくなっていくというわけで、自分がなるべく居心地の良い場所を目指している自覚なんかも蔡ってくる。途中、上級生の一団に行く手を阻まれる。見知らぬ顔の男子生徒が先頭になり、手当り次第といった様子で下級の女生徒を捕まえては「付き合ってください」と手を差し出して大袈裟に頭を下げている。その後ろから取り巻き達が「断ってやれ」とはやし立て、状況が飲み込めないらしい女生徒がおどおど断ると笑い声をあげながらお神輿が通り過ぎて行く。それを待って階段をまた登る。

目指すは校舎の最上階。鍵のかかった特別教室が増えて人の密度がぐんっと下がる。空気も冷えてひんやりうまい。なるべく居心地が良いところ、つまるところヒト気の少ない場所を求めていくと、ここへ辿り着く。別に特別本が好きというわけではなかったけれど、比較的自由に立ち入り可能だったというのが理由で私は図書室にやって来た。教室ではOが私の鞄を振りまわしてKを殴っていた。

ネット上で議論が起こると「学級会」って呼ばれているみたいに、ネットのおかげで学校を思い起こす空気感には未だアクセスできて、そこからそそくさと立ち去りたくなる自分の性分も健在で、こんなふうに『漱石山房の冬』の真似事をしながら「図書室」をこしらえている今日此の頃です。

「学生時代に好きでした」

そういったお言葉を拙作へ頂くこともありますので、リアルな学校の思い出とボーカロイドが結びついているという方もいらっしゃるでしょうか。たとえば学校で味わう『ラウジーカ』だとかは、それはもう格別だったろうと思うのですが、私の在りし日の図書室には初音ミクの声も届かないのでそういったことを語ることはできません。

図書室こと学校図書館。特別な思い入れこそ無かったもののそこそこ快適で好きな場所でした。まず広い。ついでに少し暖かい。歩きまわって棚で身を隠してもいいし何処かに座っていてもいい。なんなら本だって読まなくてもいいんだけど、児童向け文学だとかのハードカバーを一冊借りておく。これはいかにも読書中という見た目になるから、人から話しかけられない効果を持った盾としても使えるので教室でも役に立つ。絵を描くのも防御の嬢えとしては中々優秀で美術部員になって仕事の一つでもしておけば文化祭近くには教室で堂々寝ていても許された。その特権で美術準備室に篭もっていても良かったのだけど、図書室はこちらの身分も問わず通してくれるのがありがたかった。「わたしたち」という単位を求められないのが良い。

図書館は死者らで満ちあふれた魔の洞窟である。これらの死者は蘇る。我々がページを開くと……というのはボルヘスの引用の引用で。そこいらの学校図書館では役不足の感は否めないものの、あらゆるアーカイブは幽霊のように時を止めて「私」が触れたときにだけ動き出すのを待っている。漱石のような教科書の中だけの死んだ文学でさえ死んだままにさせていたのだから私は良い読者でも学生でもなかったのだけど、死者の国の恩恵に浴する形で「学校」が通り過ぎていくのを待っていたのでした。

× × ×

普段不干渉ながらこちらのリクエストには競身になってくれる司書がいたのもよかった。それが所蔵していない本であると知ると隣町の学校から借りてきてくれたし、後日図書館だよりにて『ライ麦畑』が入荷されたことを知るのは嬉しかった。

Nov 26, 2020

Anded

メッセージを送る

OTHER SNAPS

Written by

Anded
@andedalive
Anded's BLOG
「PVつけてみた」制作中の生存報告

g.o.a.t

Oct 14, 2020

愚陀仏は主人の名なり冬籠

by Anded

『千一夜物語』は奥いいタイトルだと、ボルヘスがしきりと褒める。私はわけがわからないので永久に首をかしげてしまう。千という大きな数字は「無数」の意味を持ち、そこに一夜加えることで、永遠のさらにその彼末で続く愛も語れるのだとか、西洋から見た「東洋」への神秘的な第一印象が含意されている話種などを聞けばなるほどとも思えるが、『世界で一番奥いいタイトルのひとつ』とまで言われるようなのは、いくらタイトルを読めていても実感として湧いてこなかった。

昨年は漱石の『夢十夜』をよく読んだ。一夜目が特に好きだった。十夜も、一夜目の中でいつのまにか話っていた百年も、「無数」を表すものだった。あるとき漱石の短編小説に『一夜』があることに気がついてその一文目を読む。"奥くしき多くの人の、奥くしき多くの夢を……"と、夢十夜へ響いていくような書き出しからして唆れ出れる。漱石のおかげでボルヘスが千一夜物語をまずそのタイトルから褒めるのもほんの係かわかるような気になってしまった。

不勉強でありまして、後から後から大事なことに気づくのですが、『すべてのゴーギャンへ』という曲も上に出した二つのような感じがあって、また一段と奥いいなと感じるようになりました。

NICOVIDEO

【間音レンリ】すべてのゴーギャンへ〔オリジナル〕-ニコニコ動画

ext.nicovideo.jp/これを試げ >

powered by embedly

"ちょうど何千の弦を持つピアノの倍音のように"

深然と詩が良いなと思って好きな曲の一つにはなっていたものの（それはそれで大事）、実際のピアノの弦の数も倍音の仕組みもよくわかっていないのでここに「無数」を感じるまでに随分とまわり道をしてしまった。初めて聴いた当時は特に絵画を音楽の言葉で例えるのが面白いなというのもあって、ゴーギャンとゴッホのことを思い出したり、ゴーギャンゴッホといえばひまわりだろうということで、ゴッホのひまわりをモチーフに描いた自分の古いイラストを引っ張り出して聴いていた。その後『すべてのゴーギャンへ』の作者のそうさんが『ひまわり』という曲にそのイラストを添えてくだきったのも嬉しかった。

そう
@sgam1984

Andedさん@andedalive
ありがとうございます。

11:27 PM - Dec 2, 2017

Read the full conversation on Twitter

28 Reply Copy link

Read 1 reply

あらためて『すべてのゴーギャンへ』というタイトルにもどってくると、自分も無数のゴーギャンのその一人になったような気になる。ここでのゴーギャンは創作に情熱をむける人くらいの意味にしておく。この何かをつくる人々がこんな夢を見た。」と謎かに話して聞かせると、別の誰かも夢を見てそれぞれの夢を語りだすような波及のイメージが個人的にはわかりやすい。ゴッホとゴーギャンがお互いに影響し合ったように。そうしたひろがる様と同時に時間軸が存在する時になっているものが何だか音楽的で素敵だなあと思ってしまう。

ひまわりの花は個人的にも慣い出のあるモチーフの一つで、夏の終りにまた一枚描いておこうと思った。上の二つの楽曲と直接関係はないお話だけれど、ひまわりを描くにあたって聴き直してもいたので、是非紹介したくなったのでした。絵の方のひまわりは控えめになり、タイトルもブリザーブドフラワーになりました。

Anded
@andedalive

Preserved flowers

1:13 AM - Oct 10, 2020

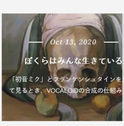
373 Reply Copy link

Read 2 replies

Oct 14, 2020
Anded

メッセージを送る

OTHER SNAPS



Written by

Anded
@andedalive
Anded's BLOG
「PVつけてみた」制作中の生存報告

g.o.a.t

Oct 13, 2020

ぼくらはみんな生きている

by Anded

「初音ミク」とフランケンシュタインを重ねて見るとき、VOCALOIDの合成の仕組みが怪物のように継ぎ接ぎ状であることや、派生作品を増殖する下位ボコンとするようなネット構造を持つなどの模似点はもちろん、カーロフの言葉にあるような彼女/彼へ向けられる親愛のような感情の存在も強調しておきたくなるけれど、カーロフのようなのはもしかしたら稀で、僅けたものより多くのものを寄われたりもするだろう。

カーロフのようなといえば、やなせたかしがいる。中年カーロフをスターにしたのはフランケンシュタインだったが、老年やなせたかしを売れっ子にしたのは「字幕アンパンマン」。やなせたかしがアンパンマンのことを悪く思っていないことを、むしろ特別良く思っていることは、やなせたかし自身の造書として出版された本にアンパンマンの名前を出していることからも関連づけてはいたろうと思う。アンパンマンがフランケンシュタインから影響を受けた系譜の作品だったことも強く興味を惹かれるところだけれど、それより私はやなせたかしという作家がとにかく好きなので、これから色々と生意気なことを書きますけれども少し甘く見ていただけたら幸いです。

いつものように作家の横で攻殻機動隊 S.A.C. 2nd GIGを流していると最終回にタチコマ達が「手のひらを太陽に」を歌うのが聴こえてくる。（説明不要に思うけど一応、作詞はやなせたかしです）
"ぼくらはみんな生きている　生きているから笑うんだ"
"みんなみんないきているんだ　ともだちなんだ"

アンパンマンマーチによると愛と勇気だけが友達なアンパンマン、何度そのことについて冗談っぽくつつかれたことだろうと気の毒に思っているが、待て待て、やはりアンパンマンは生きていないということ！となってしまう。「アンパンマン」自体は未だに続いているが「やなせたかしのアンパンマン」は既に死んでいるとすると、それはおそらく怪傑アンパンマンの時代に起きたのではないか。やなせたかしが気晴に入ってから今日で7年にもなるけど、よりやく彼の遺書、もとい『アンパンマンの遺書』を読む決心めいたやる気が湧いた。でもその前に、私の見てきたアンパンマンの話も残しておこうというのが今回の趣旨です。

私が生まれたときすでに世間では幼い子どもにはアンパンマンを与えるのが定番になっていたんじゃないかな。物心つかない頃に受動喫煙するタイプのコンテンツはそこからの卒業も早いほうがいい。できればTLで流行るコンテンツと同じくらいスピーディに、遅くとも幼園にあがる頃にはアンパンマンがデカダカとプリントされた真っ赤なトレーナーは脱ぐべきだろう。私は失敗した。小学生にしてトレーナーどころか上下セットで足の先までアンパンマンでまっかっかだった。

その日は運悪く、いつも重まるメンバーの中に近所の少し小生意気に大人びた年下の女の子が居合わせていた。そのときの私の気持ちはというと「何だこの赤ちゃんみたいな格好は」とさすいた。一つも年上の子供の面目はグシャグシャに潰れているが何とかその場から距離を取って明後日の方向を向いて立った。プリントが前面のみで助かった。背後からどうしたのと声がかかるが恥ずかしさのあまりみんなに背を向けて二度と振り向けなくなったところで私の幼少期の記憶は途切れる。共感性羞恥ちゃんで言葉を難しもが使うようになはるから曾の出来事を思い出しては、私はあのときアンパンマンを殺した（卒業した）のだと確信した。

このときの「アンパンマン」というのは、赤ちゃんが生まれる限り親たちが与え続けてしまう、人間社会が生み出した得体の知れない化け物陶業コンテンツという印象だった。第二種永久規模にまで永遠の命が約束されていたが、私温卒業生にしてみれば不ッつはまるで走り続けるゾンビのように異様で、幼稚な、笑われ者で。「何度死んでもまた生まれる」というイカれた歌詞の通りだと思った。

しかし後年私の中でアンパンマンが復活する事になった。そのときこのアンパンマンというやつは「初音ミク」に似ているなと思ってしまったから、もう事中は映画や、やなせたかしの作品たちに触れ直していった。「怪傑アンパンマン」まで来たときそのような思いに至った。

私が生まれたときすでに、とっくに「やなせたかしのアンパンマン」は死んでいたんじゃないか。今テレビ画面を通じて見るアンパンマンは、あの日私がこの手で殺したのは、だれでもない作者であるやなせたかしの手によって作り変えられた器なのだけど、これを守ることがやなせたかしの映画の仕事だったのじゃないか。なんにしても他人の胸の内のことだから想像の域を出ないのもいいことにして、そういうことを考えた。

ところでトレーナーをアンパンマンで真っ赤に染め上げていた頃よりもこの10年のほうが、アンパンマンをみていることは実の種になることは多かったと思う。幼児向けコンテンツとしてとことこ育つと仕方がないし、別にダークファンたちにしろとは思わない。

今の私がアンパンマンを他の作品と同列に扱う理由の一つには、アニメ会社で動画マンの研修をうけた経験があるからもしれない。（若気の至りで大変迷惑をかけたのでこの辺りは詳細を省いてふわっと書きます）様々な作品が集まるスタジオだったのも運が良かった。動画という工程で様を引くときそれが児童向けかどうかは関係無く気の抜けた様は一本だって許されない。アンパンマンが陶業アニメでもある以上ずさそうした顔の見えない人々の真面目な仕事に作品が支えられていることが頭から抜けない。おかげでアニメ映画を観ても話を読み込めるのが苦手だったけど、それでも映画のアンパンマンが他の子供向け作品同様、作画以外の部分にしたってきちんと作られていることはすぐにわかった。

まず映画アンパンマンはゲストキャラクター投入型のシリーズで、作品ごとに投入されるキャラクターの多くがアンパンマンとは初対面。アンパンマンといえば自分の顔もちぎってお腹を空かせた人に与えるわけだけど、初対面の彼らはアンパンマンが顔をちぎるとそのことに驚き、顔を受け取ることに躊躇する。すでにクレイジーアンパンマンムーブに慣れきったこちらとしては彼らの頭を舞いのほうに驚いた。このゲストキャラ達がアンパンマンの顔をどう食べるかは映画の一つの見どころで、アンパンマンへの信頼度を表すアイテムとしても機能している。たまにアンパンを受け取らない子や地面へ投げて返すような子もいるのがいい。あんなふわっとしたことしか言わない奴においそれと心を開っていはいない。

中でも『いのちの星のドーリィ』は、人形に命が宿るクラシックな設定もあり映画初心者としても思われたし、人形ドーリィが自分の身体に宿った命が日に日に弱っていくことへの恐怖を同じ境遇のはずのアンパンマンに仕舞するシーンがかなり良い。「アンパンマンの命の星は身体に消け込んでいるので、わたしの命の星はどんどん小さくなっていく」そう言うドーリィの設定はキャラクターを創作する行為に近しいところがある。

キャラクターがひとりでに動き出すかどうかはわりと運、運良く動き出してもそれがいつまで続くかわからない。私の頭の中にはいつも舵からが居るけど、これもいつの間にか消え去ってしまうものである。それが嫌で消えないように消えないようにと必死なのだドーリィも。しかしこのアンパンマンは赤ちゃんコンテンツとして毎年絵筆を入れ替える仕組みを持った化け物でもあって、時日今日動き出したキャラクターとは強度というより性質が異なる。ドーリィとアンパンマンは対頭的なキャラクターだった。

本作はアンパンマンが死ぬ作品としても知られるけれど、そこからの復活シーンが重要で、このアンパンマンという今の初期のフランケンの設定から変容していて、大病に触れたキャラクターとして現在どうさき続けているかを表しているように見えた。創作の連鎖の止まない現在の初音ミクに似ている。次から次へと人々が命を注ぎ込む。

命を与えるのがアニメーションの語源だし、陶業アニメは固体技だということももう知っていた。なかなか良い作品だねってよりも、アニメ映画としてとつもないものを観た気がした。劇中でアンパンマンが復活したのと同時に、作品に絡むものだったことで私の中でアンパンマンが生き返ったわけだけど、なんとも現金な話だった。

そんなこんなで私の都合で死んだり生きたりするアンパンマン、もといやなせたかしという作家のことが未だに好きなのではあるけれど、彼が生きている間にもっと言葉にしておきたかった。

やなせたかしはよく「才能」について語く。ライオンが自分のことを犬だと思い込めばはみ出し者として統で撃たれ、羊が狼になろうとすれば飢く孤独な存在になったりする。生まれ持った才能に抗うとろくなことがないとでも言いたげだ。やなせたかしは遅咲きの作家としても有名だけど、それもあってか何よりコンプレックスの作家に見えた。以前見たどこかのWEBサイトでやなせたかしが絵本の紹介文のなかでこんなことを言っていた。

「ぼくは絵が上手くないから」

こうした自己評価と作品にみなぎる凄ゆいコンプレックスは映画のアンパンマンでも繰り返し描かれた。作劇をパターン化すれば楽になるなと誰その都合もあるかとは思うが、やなせたかし的コンプレックスを抱えた子どもたちに努めて優しく接る舞い続けている。現代の宣謀は心の方へ移ったようだった。
ヒーローとしてのアンパンマンに憧れる子供にはアンパンマンはこんなことを言う。

「ぼくは強くなんかないよ」

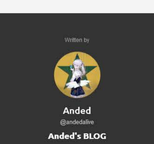
アンパン頭からたまにやなせたかしが見え隠れするのも愛らしいところだけど、当時は、私もそうだと泣きつく無持ちだったのでそれどころではなかった。恥ずかしながら私も絵を描くけれど、思い出してみても私は絵を描くのが上手くない。たとえば当陶業の中国記念に作ったマグカップ、描いた絵を転写するのだと長方形の紙が配られた。お遊戯発表会で人気のうさぎ役を譲り不人気だったねずみ役を買って出たTさんは、レンガ壁のような無敵なデザインを描いていた。うさぎの尻尾をつけた私はそれを少し真似だけどうまく出来なくて途中で陪練変更し出来上がったカップは一重所不自然に描き直れて汚い。こうしてマグカップに張り付いた敗々たる気持ちも思い出すはめになるので、アンパンマンの話はしばらくいいやとなるわけだ。

さて、やなせたかしの輪郭をその作品から探るのは、ひとまずここまでかもしれない。本人が実際どう思っていたのか『遺書』に載っていたら私感を述べるのも遠慮してしまうかもしれない。やなせたかしが亡くなったのは今から7年前の2013年だった。私事が続いて申し訳ないけど動画を投稿した年なのもあって驚えている。せっかくなので今日中に書いてしまいたかったのでだらだらと書くなってしまって締めくくり方もきっぱり分からないのではありますが、こんなところにしておこうと思います。

Oct 13, 2020
Anded

メッセージを送る

OTHER SNAPS



Written by
Anded
@andedalive
Anded's BLOG

「FVつけてみた」制作中の生存報告

g.o.a.t

Sep 28, 2020

七尺去って師の影を踏まず

by Anded

"私の愛する古い怪物。"私は彼にすべてを借りている。彼は私の親友だ。"

> My dear old monster. I owe everything to him. He's my best friend.

ギレルモ・デル・トロがジョー・ダンテのツイートをRTしていたのを見た。ポリス・カーロフのドキュメンタリーの予告編が公開されたというトピックは今月最も気になった映画の話題でした。デル・トロ監督のフランケン好きは過去に何度も公言されているし、早く彼の撮ったフランケンシュタインが観たい気持ちはファンのこちらも衰えないのでいつか実現するのを楽しみにしている。上掲した二人を含む著名人達へのインタビューと、カーロフのキャリアの資料映像などで構成されたドキュメンタリーとなっているのが『BORIS KARLOFF- THE MAN BEHIND THE MONSTER』ということで、公開情報などはまだ無いみたい。

同じような構成で作られたドキュメンタリー『アメリカン・ナイトメア』にも出演していたジョン・ランディスは髭も髪も白くなったが今回もやけに元気な様子で、彼がフランケンシュタインのタイトルを叫ぶところで嬉しくなってしまう。カーロフといえばやはり彼をスターにしたフランケンシュタインの怪物役となってしまうように、本作のタイトルのように、二人はほぼイコールで結ばれる。映画フランケンシュタインの功罪があるとしてその両方を象徴するのがカーロフの演じた怪物だったように思うのだけど、映画が原作の繊細な部分を隠したように、一人の俳優としてのカーロフという人も巨大に膨れ上がった怪物が覆い隠してしまったことを知らせるようなタイトルだと思う。

記事冒頭に載せた言葉はそんなカーロフから彼の怪物へのもので、彼らの関係をとても素敵なものに思わせてくれる。

「モンスター・ショー―怪奇映画の文化史」のデイヴィッド・J. スカルのインタビューがあるのも大変惹かれるポイントで、しがないホラー映画ファンの自分でも見覚え聞き覚えのある顔ぶれ並ぶ。とはいえ言葉の壁がもどかしいので、是非ぜひ！本ドキュメンタリーが日本語字幕など付いた状態で観られる日が来たらいいなあ！

ところで映画フランケンシュタインの功績の一つでありますが、カーロフの怪物を作り上げたジャック・ピアースの特殊メイクに関する話題についても、デル・トロ監督が最近ツイートしていました。推しが推し事をしていると嬉しくなるオタクとして当時そちらもRTさせて頂きました。映画『笑う男』でありますが、この映画でのジャック・ピアースの特殊メイクがジョーカーに与えた影響などについても、昨年の映画『ジョーカー』によって更に周知となったことだろうと思います。「笑う男」から「笑い男」へなんて話もまたできればと思ってしまいます。

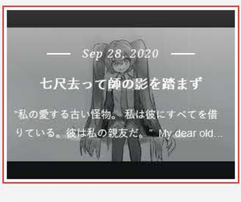
補足になりますが、本記事内で「映画フランケンシュタイン」と呼んでいるのは、ユニバーサル製作の1931年の映画のことです。映画史の中でも欠かせない存在となってしまったフランケンシュタインですが、映画監督のほうへ光を当てた映画もあります。『ゴッド・アンド・モンスター』はフランケン監督ジェームズ・ホエールの晩年の物語。また、原作者へ再度注目させる『メアリーの総て』も記憶に新しいところです。『フランケンシュタイン』という作品がアダプテーションという形で広がっていく中で関わる人々とそれぞれに違った関係を結んでいるのがとても好きです。それぞれがフランケンシュタインの解釈がそうであるように多様で、怪物を産んだ女、怪物をつくった男、怪物を演じた男、それらに影響されたファンや作品群すべてが愛おしいなんて気がしてきます。中でも独特な立ち位置であろう怪物を演じたポリス・カーロフのドキュメンタリー、彼の視点を直接知ることはもう出来ないものの、彼のドキュメンタリーの知らせは忘れかけていた視点を思い出させてくれるものでありました。

Sep 28, 2020
Anded

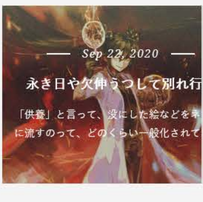
メッセージを送る

OTHER SNAPS

Oct 13, 2020
ぼくらはみんな生きている
「初音ミク」とフランケンシュタインを重ねてみるとき、VOCALOIDの合成の仕組みが…



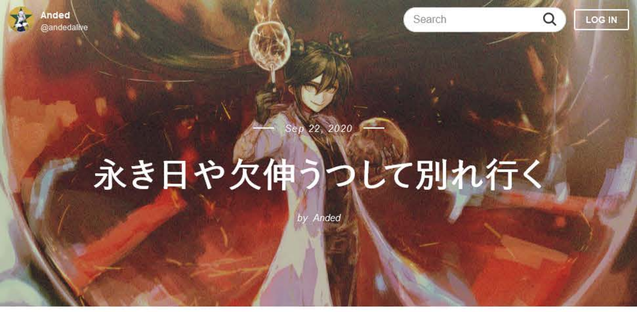
Sep 28, 2020
七尺去って師の影を踏まず
"私の愛する古い怪物。私は彼にすべてを借りている。彼は私の親友だ。" My dear old…



Sep 22, 2020
永き日や欠伸うつして別れ行く
「供養」と言って、没にした絵などを海に流すのって、どのくらい一般化されて…

Written by
Anded
@andedalive
Anded's BLOG
「PVつけてみた」制作中の生存報告

g.o.a.t



Sep 22, 2020

永き日や欠伸うつして別れ行く

by Anded

「供養」と言って、没にした絵などをネットに流すのって、どのくらい一般化されている言い回しなのかはわからないけれどわりと昔からよくある気がする程度には馴染みがあるし、それに限らずTwitterのタイムラインって「流す」と言うのがピッタリで、未だボトルメールのような感覚にも近くって、笹舟を流すような時間にも似ていて、それが流れていくのを見届けて帰路を目指すとき今日のような秋陽気であればなお良くて。あわよくば冥府の川と繋がっていますようにと、行方のわからない希望を放流するのが、今も昔も好きなのです。千切って流した笹の葉がいつまで綺麗かには頓着しないのです。

朝晩には肌寒いような秋彼岸を迎えて、例年より余計に秋らしさを意識しているような気がします。そういえばと、この時期に描いていた覚えのある過去絵に少し手を入れてTwitterへアップしました。古い絵のリメイクでもあり過去に何度か流したこともあり、なんとなく没絵の供養という気持ちが強いイラストです。たまに気が向くとファイルを開いては「もっと良くなる」と加筆修正をしていたんですが今見てみるとこれは直したからといって「もう良くはならない」と、そういうふうな言い方だとネガティブな感じがしそうではありますが「新しく描くほうが良いものが出来そう」とも思い、完成させるって大事だなと思いつつ完成したとは言いたくないような漱石枕流でも前に進むならよしという事にして、この絵を加筆修正するのはここまでにしました。自分の区切りのためという色合いが強いのではありますが、見てくださっておりましたらありがとうございます。

Anded
@andedalive

pujana

7:08 AM · Sep 21, 2020

233 Reply Copy link

Explore what's happening on Twitter

Anded
@andedalive

destrudo

5:03 PM · Sep 21, 2020

106 Reply Copy link

Read 1 reply

Sep 22, 2020

Anded

メッセージを送る

OTHER SNAPS

Sep 28, 2020

七尺去って師の影を踏まず

愛する古い怪物。私は彼にすべてを借いる。彼は私の親友だ。"My dear old...

Sep 22, 2020

永き日や欠伸うつして別れ行く

「供養」と言って、没にした絵などをネットに流すのって、どのくらい一般化されてい...

Sep 9, 2020

猫がいないとき、ねずみが遊

鬼の居ぬ間に洗濯とも。私にとって鬼と目々鈴を描くことかもしれません。「描く

Written by

Anded
@andedalive
Anded's BLOG
「PVつけてみた」制作中の生存報告

g.o.a.t

Sep 9, 2020

猫がいないとき、ねずみが遊ぶ

By Anded

鬼の居ぬ間に洗濯とも。私にとって鬼とは日々絵を描くことかもしれません。「描く」の中でも精神だとかMPを根こそぎ使って、どろどろになって、ついついそれ以外がつけられなくなりそうなやつ。他にやることがあるときには実にまずいやつ。まずいがうまいのでやめられないなどと言っていられないほどにしびれなって尻を叩く魔が通ってこれない時期はあって、今もそう。鬼とは言えども居ないとなると、頼りにしている主人から戻を出されたり下人のような不安があるのではありますが、こういうときには普段やれなかったことに手を延ばそうと考える余裕なんかも出てきます。こうしたことが私にとっての洗濯なのかもしれません。

MPというのか、精神力、ただただ気持ちばかりで描くときには、頭を使って描かないということになりがち。それがおりつては基礎的な部分が体力のように衰えていくのではあって。向上心にはスケイトのように振り返って思うこともあります。MPを使って描くときは家石雲うところ馬になっている。“馬は走る 花は咲く 人は働く 自分自身になりたいが為に”のは大事にしつつ、“牛になる事はどうしても必要です。”と家石の言葉を噛み締め馬を引き止め、筋トレのように洗濯を契めようと思うのです。 *(引用元：夏目漱石が久米正雄と芥川龍之介へ宛てた手紙)*

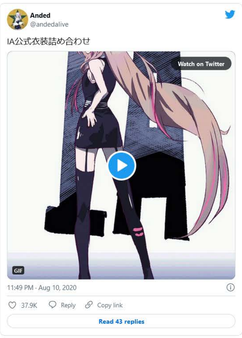
あまりに忙しいとなるとTwitterをはじめ気が散ってしまうアプリなどは一旦削除してしまおうと思うのが恒例なのですが今回はアカウント削除のような乱暴なことは止めておこうという方針でありますから、何かしらアウトプットをしつつ鬱に陥る過ごそうとなればブログを書こうというのはちょうど良い洗濯の一つになるかと思いきや、下書きに考えるまとめたところですぐに絵のほうへ飛んでってしまったり、なんやかんやと理由をつけては急いでブログを書くことはないか、と持ち前の怠惰を発揮してしまいました。せめて最低でも更新頻度は月に一度ということするべく今回のエントリに手を付けているところです。

下書きの中で 「普段やれなかったこと」をあれこれ考えていましたが、すでに具体的に形になったものもあって、先月からIAのファンアートが多くなっているのもこの「普段やれなかったこと」をやろうとした結果です。普段、公式のミクやIAのファンアート（公式衣装装）というのはあまり描かないようにしていましてミクやIAしか描いていないのですけど、あまりキャラクターのファンの人にお見せするようなものではないなと思うものが多くて。

@andedalive のアカウントを持とうと思ったのも簡単に言ってしまえばミクとIAを描きたかったからなのですが、もう少し踏み込むと、自分がそれまで描いてきたミクの物語を踏まえた上でどうもIAも描きたくて「過去の自作品と繋がりを持つ創作物を描ける場所」が欲しかったからと言えます。作品にそのような文脈を持たせたい場合には作者という印は便利なものですが、それにしたって、ミクを描いたときにはあの動画のミクだなとか、何となくわかってくれる人が実際に居てくださるのは何にも代え難く有難いことでした。（アカウントを作ることに描きたいと思っていたものは自サイト（andedalive.com）のほうへまとめています）

ミクやIAを描くときにはボカロ周辺の創作文化特有の限りなく一次創作に近い感覚もあり、そういうときには公式のキャラクターとしての彼女達とは別物であるようなエクスキューズというのか、綾引きの一つとして「衣装を変える」ということをしていました。しかし現在はTwitterが「文脈から寸断される場所」であること、そんなエクスキューズは通用しないことを重臨せざるを得ない時間も増えてきたこともあり、多少使い方を改めてみようだとか、やはりここでも普段やれなかったことをしてみようという思いに至ったのでありました。

伝えたいことがたくさんあって、表現したいことがたくさんあって、それでも食べやすいように加工はしないので、誰にでもお出しして良い代物ではないのじゃないかというのがもの創作活動にとっての「普段」です。更に自分の根っこがホラー畑にあるのもあって表現から大なり小なりホラー色が出ますので人目をはばかるのが標準装備。誰にでも何処にでもお出しして良い物では、とならなりますと、そもそも人に見て頂くようなのがあまり好きではない性格とも思います。以上のような「普段」とは違うほうに筋肉を思っきし伸ばしたようなのが最近描いているIAのファンアートです。なんとか今度の洗濯ではたくさん見てもらって欲しい絵も描けるようになれたらな、なんてことを思っているわけなのです。



Sep 9, 2020
Anded

メッセージを送る

OTHER SNAPS

Written by
Anded
@andedalive
Anded's BLOG
「PVつけてみた」制作中の生存報告

g.o.a.t

— Aug 5, 2020 —

洪水の あとに色なき 茄子かな

by Anded

ツイートってそんなぜんぶ消すとかしてたらだめだと思うんです。だって人がそんなのしてるの見たら心配するだろうとか、なんだこいつとか、普通想像したらわかるんです。ああもう本当にすみません。

この人はしょうがないよな、ニコニコに投稿していた動画も一時期非公開にしていたような人だもんなって、大目に見るでも呆れて見放すでも、鑑みてくださったりして、わりと年季の入った筋金入りの消し魔で居させてもらえるの、本当に有り難いです。たぶんそろそろみんな慣れてきただろうとか少しでも思っててすみません。反省はしているのですが、今後はもう絶対に消さないぞ、とまで言うと一切投稿できなくなりそうです。現在取り組んでいるものが出来上がった際にはTwitterでもお知らせしたいなと思いますので少なくともそれまでは無闇なツイ消しはせず、もしかしたら節度ある人間なのかもと思ってもらえるように使いこなしていければと決意を新たにした次第です。どうしよう無理かも。

長年の人目をはばかる妖怪人間スタイルが板についてしまっていて、Twitterを鍵垢にして運用することも考えはするのですが、おそらく当方を好んで見てくださる方の中には闇の妖怪人間（こちらからは認識できないように身を潜めているタイプ）がいらっしゃるのではと、自分がそうだからこそ思いまして、とりあえず開けっ放しにしておいています。Twitterも好きに使えば良いのではあるのですが、見てくれる方にだってなるたけ良い気分でいてほしいと思います。いやもう本当にすみません。

それから、ある程度長い文章をTwitterで書くのにも抵抗がありましたので、こんなブログにしてみました。せっかくなのでこちらも少し続けてみようと思います。記事更新のお知らせはTwitterで！

画像も貼れるんですがGIFとかは止まっちゃうんだな

Aug 5, 2020
Anded

メッセージを送る

OTHER SNAPS

Written by
Anded
@andedalive
Anded's BLOG
「PVつけてみた」制作中の生存報告

g.o.a.t